



令和3年度 自己点検・評価

令和4年7月1日

# コンセプト

## ”仕掛ける人に、なれ”

時代を創り、  
新しい価値を生み出していく人材＝”VISION MAKER”を  
育成することを目的として教育を行なっています。

\*MIICAで育む5つの力

01 目標を立てる力 将来なりたい自分をかなえるために、今の自分が達成すべき目標を適切に立てる力

02 自分自身を知る力 いろいろな人との人間関係の中で、自分の実力や価値観などを客観的に見る力

03 価値を生み出す力 まわりの人たちと協力しながら知識や経験を組み合わせて、新たな価値を生み出す力

04 恐れず挑戦する力 目標達成のために何をすべきか自分で考え、失敗を恐れずにトライアル&エラーする力

05 自ら知識を得る力 トライアル&エラーする中で見えてきた、自分に足りない知識を自ら積極的に獲得する力

## <教育の目標と重点>

- ・令和3年度の重点目標

### 目標① 選択授業の実施強化

2,3年生に対する選択授業の実施（前年度同様）に加え、3年生のみ参加可能な選択授業を設定することで、カリキュラムの個別最適化を図った。

#### ◎2,3年生向け選択授業（ゼミナール形式）

デザイン実習 / アニメーション・映像制作 / イラストレーション  
プログラミング / Webデザイン実習 / 写真表現 / 音楽ビジネス  
舞台演劇制作 / 映像演劇制作 / ダンス制作実習 / 企画実践・プレゼン  
小論文・国語表現 / 一般教養 / 現代社会・近現代史

#### ◎3年生向け選択授業（ゼミナール形式）

倫理学 / 心理学 / 演劇 / 作詞法 / ドラム&パーカッション / ボーカル

### 目標② 進路説明会の実施

・4月に在校生（2,3年生）及び保護者を対象とする進路説明会を行い、知る機会及び進路について考える機会の増加・促進を図った。また、保護者に対しての説明や、希望者は予約採用奨学金に関する説明を行うことで、保護者との連携を図りながら総合的に進路選択を考える機会とした。

### 目標③ クリエイティブワーク成果発表会の新設

・週に2時間行っている「クリエイティブワーク」という、生徒が自由に創作活動を行う時間にゴール設定を行い、より有意義に活用できるよう試みた。

※新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、データ提出のみとなった。

## <教育課程>

#### ◎カリキュラムの特色化と適切性

変わり続ける世界の中で、いま必要とされるのは「受験のためだけの勉強」ではなく「変わり続ける世の中に対応しうる力」をもつことである。

本校では、新しい時代の教育ニーズに応えるべく、自己表現し自ら未来を切り拓いていく人材となるべきカリキュラムを独自設定している。具体的には、自分の考えを他者に対して表現する

「ヒューマン・コミュニケーション学」や、自分の考えた企画の実現やマネジメント、総合プロデュース力を培う「企画立案プロデュース学」、デジタルな情報発信スキル/リテラシーを培う「デジタル情報発信学」など、「クリエイティブ」に生き、自分自身を最大限に表現していくためのスキルを身につける授業科目がある。

他にも、学校法人日本芸術学園の60余年にわたる芸術・芸能教育の強みを生かし、芸術表現（演技/音楽/ダンス/ビジュアルアーツ/伝統芸能）を多岐にわたり学習している。また、その根幹にある”教養”を、リベラルアーツや実用英語、メディアエンターテインメント学により学ぶ。

本校のカリキュラムの特色は、クリエイティブ人材を輩出するためのカリキュラムに特化させていることにある。

## <教科指導>

### ◎音楽カリキュラムの改変

1年生にはDTMを通じて時代に即した音楽制作ならびにアンサンブルの基礎を体感させてからキーボードを使用しての音の重ね方を学ぶ形式とした。さらに2,3年生では校内スタジオ設備・楽器、機材類を活用し、ギター、ベース、ドラム、ボーカルに細分化した選択授業と特別ワークショップを選択講義として設定。幅広い志向を持つ生徒の細かなニーズに対応する一方で、新しいものに触れる機会を創出した。

### ◎選択授業の強化と芸術祭連携

2,3年生の参加する選択授業はゼミナール形式を採用していることを踏まえ、研究成果の帰結点を年2回開催する芸術祭とし、アート作品・パフォーマンスアーツのアウトプットを確実にを行い、その評価を自ら受け止める「トライアル&エラー」をさらに実践的なものとした。

### ◎伝統芸能の授業・行事の連携

「伝統芸能＝過去における大ヒットエンターテインメント」と位置づけた講義「伝統芸能」を実施し、テクノロジーとライフスタイルの変化の中でも不変な「観客・顧客あつてのアート、エンターテインメント」の図式を深く理解させると共に、この授業と連携した校外学習行事（歌舞伎、文楽、能楽、相撲）を組むことによってさらなる伝統芸能への理解と未来へのヒントを指導した。

## <進路選択>

### ◎受験指導の強化

#### <4年制大学>

総合型選抜受験において特に重要となる、美術系大学の作品提出（ポートフォリオ）作成、一般文系大学における小論文・面接の指導を「個別指導」として一層強化した結果、昨年度実績校に加えより幅広い大学進学実績を残すことが出来た。

#### <専門学校>

ほとんどが面接中心であり入学難易度はそれほど考慮することは無いが、その分だけ卒業後の進路実績も含めた学校の実態把握事前リサーチの重要性を生徒に説き、ウェブサイトや請求資料の分析、オープンキャンパスへの複数回参加、講義「目標設定実行学」を通じての担任との結果やり取りと考察を細かく重ね、入学後の齟齬が無いようにした。

#### <就職>

一人一社制に代表されるように、高卒就職の現状は変わらず厳しいルール下にあることを事前に深く理解してもらうよう保護者と共に指導しつつ、文系4年制大学同様に小論文・面接の個別指導、ならびに希望職種に応じ必須となる一般教養と学力の向上指導をおこなった。結果、生徒が希望する職種への就職が実績となった。

### ◎卒業生の来校・式典撮影担当

進学した卒業生から在校生が受ける精神的影響には大きなものがあり、これが良い意味での「進学連鎖」につながる。このことを重視し、本校の卒業式・入学式に代表される式典のオフィシャルカメラマンとして卒業生（4年制大学 写真学科生）を招き、卒業生にとっても実践の場として有効活用してもらった。

## ※主な進路・就職先

### 4年制大学

- ・武蔵野美術大学 空間演出デザイン学科（1名）
- ・武蔵野美術大学 造形構想学部 クリエイティブイノベーション学科（1名）
- ・日本大学 芸術学部 文芸学科（1名）
- ・日本大学 芸術学部 音楽科 情報音楽コース（1名）
- ・日本大学通信教育部 法学部 法律学科（1名）
- ・東京造形大学 造形学部 デザイン学科（1名）
- ・和光大学 表現学部 総合文化学科（1名）
- ・目白大学 人間学部 人間福祉学科（1名）
- ・デジタルハリウッド大学 デジタルコミュニケーション学部 デジタルコンテンツ学科（1名）

## 専門学校／各種学校

- ・東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校 俳優本科 (3名)
- ・東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校 声優専攻 (1名)
- ・東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校 声優アーティスト専攻 (1名)
- ・HAL東京 CG・デザイン・アニメ4年制学科 CG映像コース (1名)
- ・日本工学院専門学校 クリエイターズカレッジ 演劇スタッフ科 (1名)
- ・アミューズメントメディア総合学院 キャラクターデザイン学科 (1名)
- ・バンタンクリエイターアカデミー 映像編集・クリエイタークラス (1名)
- ・服部栄養専門学校 調理師本科 調理ハイテクニカル経営学科 (2名)
- ・ビジョナリーアーツ フードクリエイター学科 (1名)
- ・NIC International College in Japan (1名)

## 就職

- ・株式会社プロテック (ITエンジニア)
- ・自衛官 (一般曹候補生)

## <生徒の活動>

- ・音楽制作ゼミ生の音楽プロダクション所属が決定し、在校中に音楽配信デビューを果たした。
- ・在校生の写真作品が、公益社団法人日本広告写真家協会公募展 (APAアワード2022) 写真作品部門に入選し、東京都写真美術館で展示された。

## <次年度の目標について>

- ・学校設立より6年を迎えたことに伴って、時代性・先見性を今一度確認しながらカリキュラムの見直しと改訂を行う。
- ・新型コロナウイルス感染症に伴い縮小や改変せざるを得なかった生徒のアウトプット機会を新たな形で創出し、外部へのアピールを含めた実践的アウトプットへと成長させる。